

# なごや 文化 情報

2022

Summer

No.402

NAGOYA  
Cultural  
Information

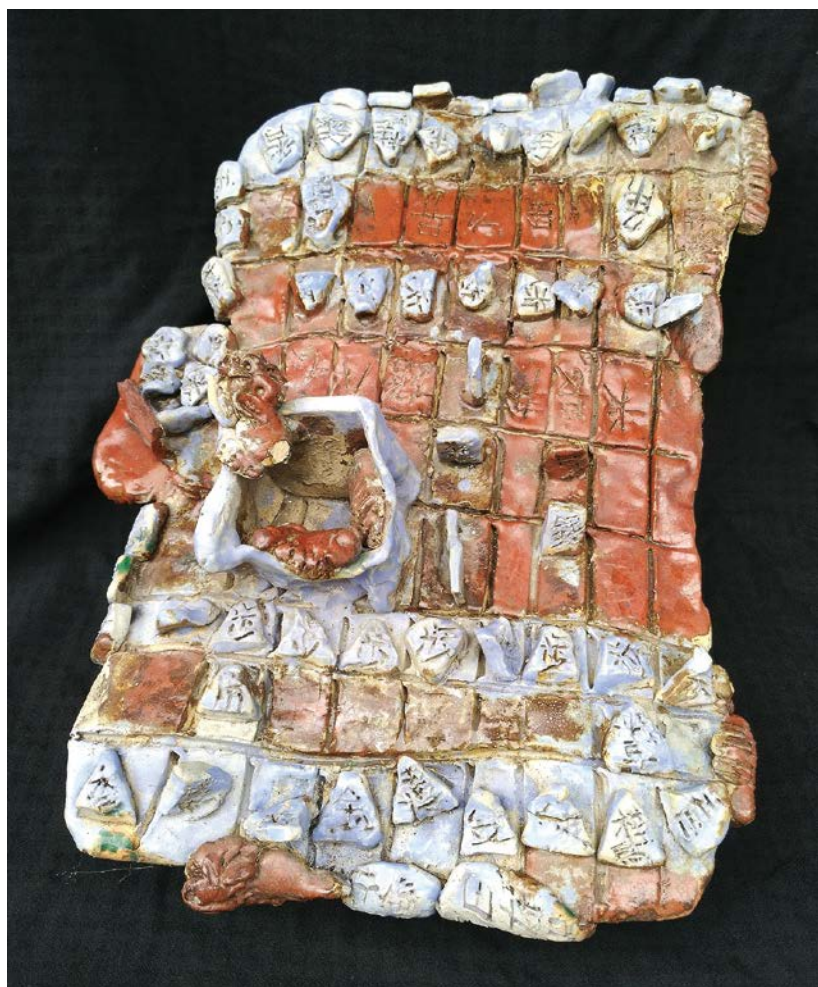
Pick Up Gallery/ギャラリー名芳洞

随想/作家 広小路尚祈さん

この人と.../演出家 伊藤敬さん

視点/名古屋の現代舞踊界、その変遷と人

#zoom up/生田流箏曲宮城社 師範 別所知佳さん



2022

Summer

表紙

将棋

(2017年/H20cm×W35cm×D70cm/陶)

テレビで将棋番組を見ていて作品イメージを持ちました。私も将棋が好きで指します。



こ でら よしかず  
小寺良和

1987年 天白ワークスにて陶芸に出会う。  
1999～ 生(いのち)の芸術 フロール展10年連続入選。  
2008年 うち、土の造形部門で大賞2回受賞。  
2013年～ ボーダレスアート展(名古屋市市政資料館ほか)に連続出展中。  
2014年 個展開催(Art-Setスタジオ、瀬戸市)  
2022年 国際芸術祭「あいち2022」出展。  
ふれあいアート展、あいちアール・ブリュット展他多数出展。

Contents

Pick Up Gallery ギャラリー名芳洞…………… 2

随想 作家 広小路尚祈さん…………… 3

この人と… 演出家 伊藤敬さん…………… 4

視点 名古屋の現代舞踊界、その変遷と人…………… 8

#zoom up 生田流箏曲宮城社 師範 別所知佳さん…10

「なごや文化情報」編集委員

- 上野 茂 (ナゴヤ劇場ジャーナル編集長)
- 杵屋六春 (長唄・唄方 名古屋音楽大学講師)
- 黒田杏子 (ON READING)
- 鈴木敏春 (美術批評・NPO法人愛知アートコレクティブ代表理事)
- 瀧津清仁 (指揮者)
- 吉田明子 (人形劇団むすび座 制作部長)

Pick Up Gallery

めいほうどう  
ギャラリー名芳洞



田川弘 フィギュア写真展  
「The Figures The small world 4」(2022年5月)

ギャラリー名芳洞は1999年8月、地下鉄伏見駅にほど近いビルの地下1階に、「21世紀の自由な空間表現の場所」を理念に貸ギャラリーとしてオープンいたしました。作家が当ギャラリーにて一週間自作を展示し、作品と対峙することにより見えてくる本質や、現時点の力量、今後の制作への手がかりを確認する空間として、これからも作家と共に歩んで行きたいと思っています。作品ジャンルは主に絵画・立体です。

設 立 1999年    オーナー 後藤保代  
住 所 〒460-0003 名古屋市中区錦一丁目20番12号  
伏見ビルB1F

電 話 052-222-2588  
F A X  
E-mail g.mei0803@themis.ocn.ne.jp

# 随想

## 時代と表現



作家

ひろ こう じ なお き

**広小路尚祈**

1972年岡崎市生まれ。2007年「だだだな町、ぐぐぐなおれ」（群像新人文学賞優秀作）でデビュー。著書に『今日もうまい酒を飲んだ』（集英社文庫）、『北斗星に乗って』（桜山社）など。

表現とは、常に時代と共にある。

時代によってこれがウケる、ウケない、といった、流行の部分だけではなく、使用する言葉や背景、考え方などが時代にそぐわなくなってしまうことも多い。古い映画やドラマを見ると、差別的な言葉を使用しているのだろうか、と考えられる部分に「ピー」という音が入っていたり、冒頭部分に字幕で、差別的と思われる表現が含まれていますが、時代背景を考慮して云々、という字幕が入っていたりすることがある。ここで私が言いたいのは、要するにそういう部分のことである。

もちろん、時代の描写や表現上の必要性から、現在の表現活動においても、あえてそういった表現方法を採用する場合もあるだろう。ただ、それを言い訳にして不適切な表現を正当化しようとしたり、無自覚に他者を傷つけたりすることがあってはならない、と私は考えている。

ただこれは、意外と難しいことでもある。

たとえばユーモアは、人を和やかな気持ちにしてくれるものだけれど、同時にある種の暴力性を帯びている場合がある。皮肉、揶揄、毒舌、これらはブラックなユーモアとして認識されることもあるが、ある人にとっては刃になることもあるのだ。「冗談のつもりだった」なんて言葉は言い訳にもならない。

また、「そんなつもりはなかったのに」ということもあるだろう。正論を述べているつもりが、正義を背負って吐いたつもりの言葉が、ある境遇に置かれた人々を傷つけてしまうこともあるだろう。誰かを守るために、誰かを踏みつぶしてしまっていることだって、ないとは言えない。

「そんな大げさな」と言いたくなることもあるかもしれない。しかし、歴史を見ればわかる。時代とともに人々は、常にセンシティブな方向に変化している。

「お友達に、バカと言ってはいけません」と子どもを叱る。これは当然の教育、しつけであるが、こう注意された子どもは、「バカ」という言葉はとても悪い言葉だと認識する。すると、自分が人から「バカ」と言われたときに、どう感じるだろうか。すごくひどいことを言われた、と傷つくのではないだろうか。つまり、表現の世界がセンシティブになればなるほど、受け手もまたセンシティブになるのである。

私は人を傷つけるために、作品を書いてはいない。ただ、未熟であるがゆえに、失敗をしてしまうかもしれない。そんな恐れを私は、いつまでも抱いていたい。

時代についていけないのならば、時代と共に滅びるまでだ。



## この人と...



## 演出家

いとう けい

## 伊藤 敬さん

戦時下に少年期を過ごし、それが活動の原点になったと語る伊藤敬さん。開業と同時に入社した東海テレビ放送で、いわゆる“昼ドラ”や、ドキュメンタリー番組を手掛けるプロデューサーとして活躍。在局中に劇団名俳の旗揚げに参加し、演出家としても精力的に活動。東京への誘いも断り一貫して名古屋で、エネルギーでダイナミックな作品を生み出してきた伊藤さん。名古屋市芸術特賞、愛知県知事表彰、地域文化功労者（文部科学大臣表彰）と、この地域の文化芸術への多大な功績が高く評価されています。そんな伊藤さんに作品に込めた思いなどを伺いました。

（聞き手：吉田明子）

## 創作活動の原点となった幼少期の体験

一お生まれと子どもの頃のことを教えてください。

1934年8月11日生まれ。生まれたのは母方の祖父母が身を寄せていた三重県四日市市ですが、生後数週間で東京に移り、父親の仕事の都合で各地を転々としてきました。尋常小学校から国民学校に改組された1941年に、現在の知多市の国民学校に入学。太平洋戦争が始まった年です。そこで終戦を迎え、中学2年生の頃に名古屋に移りました。



国民学校に入学(1941年)

世の中のことが少しわかるようになってきた小学生から中学生にかけて、いろんな人をつぶさに見ました。これまでに8作を作った「戦争を語り継ぐ演劇公演」。そのすべての原点がここにあります。当時は隣近所の人も信頼してはいけなかった。「あ

いつは非国民だ」と根も葉もない噂を立てられるからです。私も戦時中、軍国少年だったので、日本が戦争に負けるとは思わなかった。もう5、6年違っていたら軍隊に志願していたと思います。

ところが、終戦になった途端に周りの人間が変わったのを目の当たりにしました。あたかも前から自由主義者であったかのように簡単に転向した人もいました。

私は国民学校で教育を受けましたが、私を教育した教師の中で「あの頃はおれが間違っていた」と謝った人は一人もいません。中には20年30年経って叙勲を受けている人もいますが、国民にも戦争責任があると私は思います。私にも責任がある。国だけが悪くて、庶民には一切責任が無いとは私は思いません。

私の創作の原点は、“人間とはいかなるものか”といったことも含め、終戦の前後の時期に、観察を通じて私なりに理解したことがすべてです。

## 演劇に打ち込んだ大学時代

一演劇との出会いはいつですか。

終戦を迎え、中学では野球一色の生活を送っていました。高

校は名古屋の瑞陵高校に進みましたが、相変わらず野球少年だったので演劇をするとは思っていませんでした。当時、瑞陵の野球部は強かった。部員も多く、1年生の時に甲子園に出場しましたが、私は補欠の補欠だったため甲子園には連れて行ってもらえませんでした。野球部ではこれ以上無理だと思っていた時、級友に誘われて演劇部に入部しました。



中学校では野球に熱中



高校演劇部の公演写真(中央が伊藤さん)

1954年に早稲田大学に入学しましたが、学生時代一番通ったのは東大の劇研(東京大学演劇研究会)の部室でした。中学時代の仲の良い友達が東大の劇研に入っていて、その縁で自分も劇研に参加しました。当時、劇研は日比谷公園の野外音楽堂で毎年ギリシャ悲劇を上演しており、僕もその活動に熱中しました。後にギリシャ悲劇を演出したのはその影響です。

早稲田大学の放送研究会にラジオドラマのグループがあり、そこにも入っていましたし、友達の劇団の手伝いもしました。授業に出席することはあまりなかったですが、早稲田の在野精神、反骨精神は気に入りましたね。

## 東海テレビ放送に入社

—大学を卒業して名古屋に戻られたのですね。

長男だったこともあり、名古屋に戻りました。マスコミに就職したいと考えるようになり、ドラマも作れるということで、1958年に東海テレビ放送に入社しました。東海テレビ放送ができた年なので第一期生です。

ドラマを作るつもりで入社しましたが、ローカル局なので情報番組からワイドショーまでなんでもやりました。AD(アシスタントディレクター)の頃は自宅を使ってドラマのロケもしましたね。

『夏のわかれ』というお昼の連続ドラマの全国放送が私の一軍昇格の試合でした。俳優の原保美さんに「学生時代に芝居をやっていたでしょう。芝居をやっていた人の演出だ」と言われ



東海テレビ放送のAD時代

たことが思い出に残っています。劇団民藝の俳優だった細川ちか子さんからは、「うちの演出部に来ない?」と誘われましたが、名古屋で劇団を育てたいと思っていたので、お断りしました。その後、東海テレビ放送のドラマ制作部門が東京に移り、その時も誘われましたが、「なんでもやるので名古屋にいさせてください」と言って名古屋に残りました。



連続ドラマの撮影現場

—1965年に劇団名俳の旗揚げに参加されていますが、テレビ局勤務との両立は大変だったのでは?

瑞陵高校演劇部の1年先輩で、NHK名古屋放送劇団で活躍していた俳優の岡部雅郎さんとともに、旗揚げに参加し、その後だいたい年に1~2本のペースで演出しました。劇団名俳には天野鎮雄、たかべしげこなど、後に名古屋の演劇界で良い仕事をした人が沢山いました。



劇団名俳第1回公演「陽なたの干しぶどう」



テレビ局も1年中ずっとドラマを作っているわけではありませんが、ドラマ撮影が始まると連続8日間くらい家に帰れない。タクシーが着替えを運び、セットや楽屋で寝る生活が半年近く続きます。たまに家に帰ると、死んだように眠って起きてこない。テレビ局時代は子どもの顔を見る時間もない生活でした。妻には苦勞をかけた。一人で子育てしたようなものです。65歳で退職し、ようやく時間が出来たので、夫婦で北海道へ旅行に行きましたが、それから2ヶ月後に妻は急逝しました。私の一生の後悔です。



奥様との北海道旅行

—1989年にドキュメンタリー作品で第13回国際赤十字社国際映画祭 テレビ部門金賞を受賞されていますね。

東海テレビ放送のドラマ制作部門が東京に移った頃、管理職になりましたが、たまにドキュメンタリーを作ったりしました。管理職になってもスタジオに戻りたかったんです。

受賞したドキュメンタリー『わたしはひとみ』は、当時は少なかった障がい者をテーマにした作品。両親が視覚に障がいのある家庭を描いた作品で、本当にうらやましいほど素敵な親子関係でした。スタッフに恵まれ良いドキュメンタリーになりました。

## ギリシャ悲劇の上演

—1993年からギリシャ悲劇に取り組まれますね。

愛知県芸術劇場の柿落しで『オイディプース王』を演出しました。これは東海テレビ放送開局35周年記念として全編放送もされました。



「オイディプース王」

私はありとあらゆるジャンルの演劇を観てきました。アングラ演劇も好きで東京まで出かけては、唐十郎や、寺山修司の舞台などを観まくりました。当時、小劇場演劇は新鮮で、いいなものがたくさんありました。自分でも小劇場演劇の手法を取り入れて演出を試しましたが、数年同じことをやったら飽きてしまい、自分がどういう演劇をやったらいいのかわからなくなりました。そこで原点に立ち返り、ギリシャ悲劇を勉強して何本か手掛けたんです。これから演劇はどこに行くのだろうと考えた時、2,000年前のものが地球上の各地に受け継がれている理由があるに違いないと思ったのです。そこで古代ギリシャ悲劇の上演形態であった仮面劇を、学究的姿勢で演出しました。学んだのは、ギリシャ悲劇は形式を重んじ、観客が安心して観ることができるということです。そして登場人物が何者なのかを、観客にわかりすぎるくらいに提示するのです。これは、日本の能狂言も同様です。もう一つはコロス（合唱隊）。コロス無くしてギリシャ悲劇は成立しない。コロスは歌う・語るに通じます。

ギリシャ悲劇は『オイディプース王』や『アガメムノン』などの再演も含め、5本の演出を手掛けました。

## 戦争を語り継ぐ演劇公演へ

—2013年に戦争を語り継ぐ演劇公演第1作『テミスの剣』の構成・演出を手掛けられました。

きっかけは、東文化小劇場の当時の館長からの「東文化は良いホールだと思うが、大規模な演劇の主催公演に取り組みていない。ぜひ試してもらえないか」との相談でした。



戦争を語り継ぐ演劇公演 第1作「テミスの剣」

最初はシリーズにするという考えは全然ありませんでした。『テミスの剣』は、「戦後間もない時代に闇米などを食べることを拒否して餓死した山口良忠判事」が題材です。私が中学の時に実際に起こった出来事です。初演の評判が非常に良く、翌年に再演しました。

上演後、多くの人々から「こんなことがあった」「こんなお話は芝居にならないか」と、戦争体験が書かれた手紙や資料が届

きました。戦争体験者、特に軍隊体験者は多くを語ることなく亡くなっていきました。思い出したくもないことなのでしょう。私は、事実は伝えなければならないと考えるようになりました。それが積み重なり8作品となりました。全て実在の人物や出来事を基にした創作劇です。



戦争を語り継ぐ演劇公演 第6作「赦し」

#### 一テレビの仕事をしてきたことは作品に影響していますか？

今となって、テレビのおかげだと思うのは、芝居を観た人に「映像感覚がある。映像をやっていたね」と言われることです。僕は場面切り取りや群衆場面を多用します。テレビカメラは群衆の中の、ある特定の人に焦点を当てます。ただ群衆がそこにいるだけではなく、群衆の中の人にフォーカスするんです。自分では気付きませんでした。テレビ局時代に培われた感覚でしょうね。

演劇は、観た人の感性や生活体験をもとに、その人の心の中で完成するものです。演劇人はお客さんに良いと思ってもらえるものを作ろうと努力するのが当然ですし、なおかつそのお客さんの数を増やす努力をするのも当然です。

テレビ局時代は、視聴率に追われました。視聴率が悪いものは無いものと同じで、費用対効果が重視される非常に厳しい世界でした。その根性を私は叩き込まれています。観客動員数だとか観客の質にこだわっています。演劇の場合も観てもらわないものは価値がなく、観客が少なくは意味がないと思っています。

#### 一ギリシャ悲劇の経験が活かしているとのことですが？

ギリシャ悲劇には悲惨な場面、人が死ぬ場面は出てきません。そういう部分は、必ず他の人の口で語らせる間接的な表現をします。

また、ギリシャ悲劇は評論家に観せるのではなく、大衆に観てもらおうことを意識しています。演劇人は、上から教えてやるという意識を持ってはいけません。

いただけるものは全部いただいて創作しています。

#### 一この春にシリーズ8作目『さくら 桜』を上演。企画・構成・脚本・演出を伊藤さんが手掛けられました。

かの太平洋戦争末期、人間魚雷「回天」の特攻隊を志願しながら生き残り、終生「挫折感」と「罪悪感」に苦しんだ人と、それを支えた人たちの実話です。

総勢60人の出演者、2時間の上演時間。Zoomでの稽古や打合せ、ゲネプロ（※1）までマスク、本番の同時生配信。コロナ対策に時間とお金がかかりました。内容も観てくださる方の今の状況やお気持ちを考えて作りました。今後のシリーズも、笑顔や笑いをブレンドして静かに語ろうと思っています。



「さくら 桜」稽古風景



「さくら 桜」Zoom打合せ風景

### 地域の演劇人たちへ

#### 一最後に一言お願いします。

コロナ感染対策とはいえ、演劇を「不要不急」と位置づけるのは荒っぽいと思いませんか？

一作品を生み出すために丁寧に綿密な取材をされる伊藤さん。『さくら 桜』の当日パンフレットには劇中に登場する人々の実在のお写真が何枚も載っています。そして舞台上にはその人々がまぎれもなく存在し、彼らの思いや言葉がまっすぐに伝わり、その真実の重さに圧倒されました。戦争が遠くなるどころか、ひたひたと足音が聞こえてきそうな今、これからもぜひ語り継いでいってください。楽しみにしています。

※1 本番同様の最終リハーサル。



# 名古屋の現代舞踊界、その変遷と人

現代舞踊(=モダンダンス)界の重鎮・関山三喜夫(1930年生まれ)が2022年2月2日に旅立った。91歳の現役ダンサーだった。1957年に設立した「関山三喜夫舞踊団」で後進の育成に力を注ぎ、長年にわたり現代舞踊協会の中部支部長、名古屋洋舞家協議会会長を務めるなど、舞踊界の発展に尽力した功労者だった。そこで関山が愛した現代舞踊について、その変遷や舞踊家、作品の特性などを紐(ひも)解いてみようと思う(文中敬称略)。(まとめ:上野 茂)

## 始祖・奥田敏子から関山三喜夫へ

現代舞踊は20世紀の初頭、ヨーロッパを中心に発展してきたバレエの形式に反発してドイツで発生した新舞踊で、その発端となったのは、米国人ダンサーのイサドラ・ダンカン(1877—1927年)だと言われている。バレエには基本となる型(パ)がいくつかあり、その型を組み合わせ、美しい衣装をまとうてドラマを構成するが、ダンカンは様々な制約を解放し、シューズを脱ぎ捨てて自由自在な身体表現を試みたのである。

日本では昭和初期、ドイツに留学した江口隆哉(1900—77年)、宮操子(1907—2009年)夫妻が「ノイエタンツ」(新舞踊)として発表。1941年、夫妻が名古屋で行ったリサイタル



奥田敏子  
「タンゴ」(1946年)

を見て舞踊家を志したのが、名古屋現代舞踊界の始祖となる奥田敏子(1920—79年)。関山の師匠である。

奥田は名古屋高等女学校(現・名古屋女子大学中学校・高等学校)卒業後の1937年、東京の「江口隆哉、宮操子舞踊研究所」に入門。8年後に帰名し「奥田敏子舞踊研究所」を開設。翌1946年に名宝文化劇場で、記念すべき初リサイタルを行った。残念なことに、私は奥田との面識がなく、舞台を見たこともないが、このリサイタルは終戦直後の娯楽を求める人々を熱狂させ、ダンスブームを巻き起こしたのである。当然、奥田のもとにはダンスを志す若者たちが集まった。奥田は59歳にして早世したが、東海地区のダンス界に確かな人材、地盤を築いた。

## 自身の思いを自身で表現する芸術

ところで「現代舞踊」とはどういう舞踊なのか…。現代音楽、現代美術、そして現代舞踊。「現代」が付く芸術は、やたら難しい印象がある。「理解しようとするのではなく、感じる事が大切」とは、よく言われることである。

奥田の甥・倉知八洲土が編さんした「奥田敏子・モダンダンス思考」(1991年発行)で、奥田は「新時代の舞踊というものは、



関山三喜夫(中央)  
「明日の構図」(1964年)

単に見て美しいだけのものではなく、舞踊と生活が交流するものでなければならない」「舞踊は魂の叫びであり、ささやきである。個性と思想と感情が、リズムカルな肉体運動と構成を通して創造的に表現されるとき、芸術的な世界が現れるのである」と述べている(やはり難しい…)。

現代舞踊の大きな特徴は、多くの作品が自作自演であること。自らの思うところを自らのダンスで表現するわけで、作品を客観視できる演出家がいるわけでもない。当然、作品は千差万別で



野々村明子「ワルツより愛をこめて」(1988年)

ピンとキリの差は大きい。余程の才能と身体能力、そして努力と自己研磨の神性がなければ、優れた舞踊家とは言えない。関山は器用なダンサーではなかったが、自らを律することで作品に対峙した。彼は作品を何度も再演することで舞踊家としての技量と作品をスキルアップさせたのである。

## 異彩・野々村明子の登場

やがて現代舞踊界には新たなスターが登場した。奥田門下の一人、野々村明子(1946年生まれ。現・現代舞踊協会中部支部長)である。私にとって、野々村との出会いが現代舞踊との出会いになった。四半世紀以上も前のことである。当時、野々村は美術家・庄司達の、大きな布を使った作品とのコラボレーション





石川雅実

近江貞美振付  
「凍てついた天使たち」(2016年)

倉知可英「渦の中の女たち」(2019年)

関山(左端)が客演した  
佐藤小夜子DANCE LABO  
RATORY公演(2016年)

石原弘恵



を企画し実践した。実は庄司は私の高校時代の恩師であり、野々村にも一層親近感を抱いた。

野々村のダンスは衝撃的だった。彼女は野獣のように地を這い、躍動した。卓越した身体能力の持ち主だった。そして自由な発想のできるダンサーだった。BGMに演歌を使ったり、客席に下り、観客をダンスに巻き込むこともしばしば。彼女のステージはまさに「祭り」だった。

野々村は「現代舞踊にはメソッド(方法、手法)がありません。何も無いところから生み出すダンスです。ダンサーの“今”を見せるダンス。言い換えれば、それまでにたどった人生を見せるダンスなんです。ダンスは体を痛めます。その痛みさえもダンスに変換させるのが現代舞踊なんです」と説明する。

## 頭角を現した次世代のダンサーたち

さて、関山、野々村が長年けん引してきた現代舞踊界。中部支部には一時200人を超える会員がいたが、次第に目減りし、公演の観客動員数も低下してきた。そこで2011年に協会が実施したのが「モダンダンスエクステンション」である。エクステンションとは「拡張」。若いダンサー、斬新な作品にスポットを当て、現代舞踊界の若返りと活性化を狙った新機軸で、同公演を境に若く才能あるダンサーたちが頭角を現した。その筆頭と思われるのが倉知可英(1969年生まれ)、石川雅実(1972年生まれ)、そして石原弘恵(1975年生まれ)である。

倉知は大叔母・奥田敏子にダンスの手ほどきを受け、後に東京の石井みどり、(その娘の)折田克子、そして奥田の姪・倉知外子らの指導を受けて非凡な才能を開花させた。1998年には愛知県新進芸術家海外留学等補助事業の助成を受けて渡仏。フランス現代舞踊の旗手ジャン＝クロード・ガロツタが主宰するカンパニーのメンバーとして世界各国の公演に出演した。2012年には

名古屋市芸術奨励賞、14年と18年には同・市民芸術祭特別賞を受賞している。

石川は中京女子大学(現・至学館大学)体育学部で猪崎弥生から創作ダンスを学び、卒業後は光ヶ丘女子高校(岡崎市)ダンス部コーチの傍ら、出身地岡崎を拠点に「石川雅実モダンダンスKIDS STUDIO」を展開し、後進の育成に尽力。2012年には愛知県芸術文化選奨文化新人賞を受賞。2019年には光ヶ丘女子高校を「第1回日本高校ダンス部選手権公式選抜大会」グランプリに導いた。

石原も至学館大学の創作ダンス部で開眼。同大大学院修了後は「清洲MDA(モダンダンスアカデミー)」講師、至学館高校ダンス部コーチとして後進を育成。全国各地の舞踊コンペで飛躍的な成果を上げ、2018年には名古屋市民芸術祭特別賞を受賞している。

## バレエにはない表現力、創造力で

注目すべき逸材は上記の3人だけではない。2016年、世代交代を象徴する公演が名古屋市内で行われた。バレエの近江貞美が振り付け、8人の現代舞踊家が出演した「凍てついた天使たち」だ。出演したのは苅谷夏、多湖由香里、杉木恵、近藤夕希代、夜久ゆかり、長谷川美樹、福田純子そして石原弘恵。まさに次代を担うダンサーたちだった。近江は「彼女らにはバレエダンサーには真似のできない表現力や創造力がある。彼女らの意外な発想によって、僕の振付は大きく飛躍した」と絶賛。現代舞踊が、バレエに劣るものではないと実証された公演だった。

2012年から義務教育の一環としてダンスが取り入れられ、2024年のパリ五輪にはダンス「プレイキン」が新たな競技種目として採用されている。東海地区の舞踊界、若いダンサーたちの一層の飛躍が期待される。

# #zoom up

ズーム・アップ

生田流箏曲宮城社 師範

べっしよちか

## 別所知佳さん

誰もが耳にしたことのあるお箏の曲といえば「春の海」。この曲の作曲家で演奏家としても名人であった宮城道雄の流れを汲む生田流箏曲宮城社の師範で、令和2年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞を受賞した別所知佳さん。リサイタルはもとより、多方面ジャンルとのコラボレーションでも箏曲の魅力を発信し、現在は名古屋音楽大学邦楽コースの研究生として研鑽を重ねながら、後進の指導にも力を注いでいる。「芸どころ」名古屋箏曲界の次世代の担い手として、活躍が大いに期待される別所さんをズームアップ！（聞き手：杵屋六春）



### 習い事の一つとしてのスタート

#### 一 お箏をはじめたきっかけは？

うちはお箏が家業の家ではありません。もともとはピアニストになりたかった母が、私にピアノと何かもう一つ楽器を習わせたいと考え、3歳の時に家にあった箏を使ってお稽古に行くようになりました。せっかく習うならばと探してくれた先生は、名古屋箏曲界の第一人者・田村通子先生でした。飛び込みでお願いに伺ったようで、「紹介なしでいらしたお弟子さんは初めてよ」とおっしゃったそうですが、快く入門の許可をいただきました。なにぶん幼かったので入門当時の記憶は全くありません。先生のお稽古は箏に涙がポロポロと落ちるほど厳しいときもありましたが、稽古が終われば優しい笑顔で「はい、きびだんごよ」とおやつをいただいたりと、大変可愛がっていただき、先生のご指導のお陰でお箏が大好きになりました。稽古に連れていってくれる母は、いつも後ろで先生の教えを熱心にメモし、帰宅後には私にお稽古の復習をしてくれました。幼稚園の時は田村先生と一緒に舞台上で演奏していましたが、小学校低学年頃からは一人で演奏させてもらえるようになりました。10歳からは地唄三味線のお稽古も始めました。中学と高校時代は名古屋を離れての寮生



独奏での演奏会出演(名古屋市民会館)

活だったので、お稽古は夏休みや冬休みにしていただくだけになりました。その後上京して聖心女子大学に入学し、心理学を専攻しました。また上京のタイミングで、現在の師匠・芦垣美穂先生をご紹介いただきました。この頃から、お箏は一生続けていくものになるだろうと思うようになりました。

### プロの演奏家になるために

#### 一 プロの演奏家を志した転機は？

大学の卒業論文に選んだテーマはお箏の経験を活かした『脳の半球優位性に及ぼす音楽経験の影響』というものです。ピアノの和音の旋律とお箏の単旋律を、音楽経験者と全く経験のない人に聞き比べてもらい、科学的に検証していくという内容です。この論文で名誉教授の名を冠した学内表彰である野澤賞を受賞しました。その後本格的に箏曲を学ぶため、東京藝術大学音楽学部邦楽科生田流箏曲専攻に入学しましたが、在学中に体調を崩してしまいました。体調が安定しない時期が続き、休学、復学を繰り返したものの、無事に卒業することができて名古屋に戻ってきました。そして、師匠である芦垣先生の薦めで、名古屋音楽大学大学院の邦楽コースに入学いたしました（名古屋音楽大学は全国的に珍しい邦楽コースを有する音楽大学で、芦垣美穂氏をはじめとする教員が邦楽普及のため指導にあたっている。筆者も長唄三味線の教員として奉職している）。



聖心女子大学  
文学部教育学科心理学専攻卒業

東京藝大に入学して以来、箏曲だけではなく、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の第一コンサートマスターを務めたライナー・キュッヒル氏をはじめ数多くの方々と一緒に舞台上で演奏してきました。2016年には自身のリサイタルで名古屋市民芸術祭にも参加いたしました。





シュトイデ弦楽四重奏団with別所知佳(コージュ高鷲)



能楽堂に響く洋と和の調べ  
チェロ奏者 天野武子さんと(名古屋能楽堂)

## 家族の応援のおかげで今がある

### —今後の展望をお聞かせください。

幼い頃から、母がまるでステージママのように、熱心に多方面で応援してくれたおかげで、お箏を続けていくことができました。体調不良から回復した時、舞台上で演奏できることが大変幸せなことと実感いたしました。また令和2年度には愛知県芸術選奨文化新人賞を受賞しました。「お箏の知佳ち



愛知県芸術文化選奨文化新人賞  
大村知事と(愛知県庁)

ゃんのママ」と呼ばれるのが大好きだった母は受賞の半年ほど前に他界したため受賞したことを知りません。母がこの受賞を知ったらどんなに喜んでくれたでしょう。その後、心身

ともに大変充実した状態で挑んだ2021年のリサイタル。華やかな曲が大好きだった母へ届けたいと選曲したのは『尾上の松』、箏の演奏家として自信と誇りをもって演奏いたしました。

芦垣先生が、古典曲・地唄を大変大切にされており、熱心にご指導していただいている影響もあって、私も古典の曲や地唄を唄うことが大好きです(箏曲の稽古の場合、箏と三味線はセットで習うことが多い。箏、三味線共に弾き唄いで演奏するため、唄の稽古も大変重要である)。

名古屋音楽大学の佐藤恵子学長が令和3年度の修了式の祝辞で、「今後海外の留学生と交流する上で、邦楽の力がとても重要になると思う。その時は別所さんに助けてもらうことになるかもしれない」とおっしゃってくださったことを嬉しく思っています。私にしか伝えられない日本音楽の魅力を世界に発信し、世界中の留学生たちに「日本の音楽を学ぶなら、名古屋音楽大学で」と思ってもらえるよう、どんどんPRしていきたいと思っています。



名古屋音楽大学大学院リサイタルにて  
芦垣先生と(めいおんホール)

名古屋音楽大学で出会った他ジャンルの楽器専攻の友人たちとのサロンコンサートや、邦楽に馴染みのない方に向けて、分かりやすい解説付きのコンサートを開催するなど、演奏活動とともに、お箏人口を増やすべく後進の指導にも力を注いでいきたいと思っています。

母にかわって今では父がステージパパのようにたくさんアドバイスをくれています。演奏家ではない観客目線での父の助言は大変有難く思っています。家族の応援のおかげで、ここまでお箏を続けることができました。今後は恩返しのみりで、古典の人としての誇りを胸に、観客の心を震わせるような演奏家を目指して、益々芸道に精進していきたいと思っています。



東京藝術大学  
学内演奏会終演後、母と



名古屋音楽大学  
大学院修了式にて、父と





# なごやの文化を 褒められると、 うれしい。

名古屋市文化基金  
Nagoya Culture Fund

わたしの寄附で、土を耕す。 わたしの寄附が、文化になる。

名古屋市観光文化交流局  
文化歴史まちづくり部文化芸術推進課  
TEL: 052-972-3172

ご寄附のお問い合わせ  
名古屋市文化基金 Eメールアドレス  
a3172@kankobunkakoryu.city.nagoya.lg.jp

公益財団法人  
名古屋市文化振興事業団  
TEL: 052-249-9390

詳しくは、市公式ウェブサイト内 **名古屋市文化基金**

名古屋市



頼もしい味方をお探しですか？



集客・販促プランナー



アートディレクター



印刷コンサルタント

**駒田印刷株式会社** TEL(052)331-8881

〒460-0021 名古屋市中区平和2-9-12 <http://www.kp-c.co.jp>

WE MAKE YOU MOVE  
感動をあなたへ

20Hz ← → 20kHz



**A&V**  
PRO AUDIO & VISUAL & NETWORK

舞台音響 / 映像設備  
設計・施工・保守・特注品製作・業務用機器販売

お客様に寄り添った先進のAVシステムを提案する  
**株式会社 エーアンドブイ**  
〒464-0846 愛知県名古屋市中区城木町二丁目98  
TEL/052-761-5400 FAX/052-761-0909

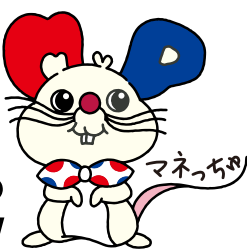
この領域を超えて最高のパフォーマンスを。

公演・発表会の受付から制作業務全般まで、何でもご用命ください。美術展の受付も対応いたします。

業務内容

- ①舞台の企画・制作マネジメント
- ②イベントの企画制作
- ③芸術団体のコンサルティング
- ④舞台・イベントの運営

**MANAGEMENT PRO**  
**株式会社 マネージメント・プロ**



〒461-0004 名古屋市東区葵2-11-22 アバンテージ葵ビル301

TEL: (052)508-5095

FAX: (052)508-5097

Web: [www.mane-pro.com](http://www.mane-pro.com)

E-mail: [mane-pro@mane-pro.com](mailto:mane-pro@mane-pro.com)

「ナゴヤ劇場ジャーナル」ではサポート会員を募集しています。

**ナゴヤ劇場ジャーナル**

◎年間6,600円で毎月お手元にお届けいたします。

◎毎月24,000部発行

※東海地方の演劇・バレエ・音楽公演、ホール、DM 等にて配布